

## 令和4年度第2回 山梨県教員育成協議会

I 日 時：令和4年9月12日（月）午後3時00分～午後5時00分

II 場 所：山梨県防災新館4F

III 出席者

委員 9人（敬称略）

降旗友宏（会長）、古家貴雄、長谷川千秋、池田充裕、廣田健、永田清一、  
小尾一仁、廣瀬浩次、柳澤縁

事務局 18人

教育監（義務）、教育監（高校）、理事、次長（総務課長事務取扱）、  
働き方改革推進監、義務教育課長、高校教育課長、特別支援教育・児童生徒支援課  
長、保健体育課長、教育企画室長、総合教育センター所長、義務教育課人事管理監、  
高校教育課指導監、総合教育センター次長、総合教育センター研修指導課長、教育  
企画室課長補佐、教育企画室主幹、教育企画室副主幹

欠席

委員1名 堀川薫

IV 傍聴者などの数 2人

V 会議概要

1 開会

2 教育次長あいさつ

3 報告

（1）第1回教員育成協議会の概要について

事務局

資料に基づき、説明

4 議事

（1）やまなし教員育成指標の改定案について

事務局

改定の考え方、育成指標の大枠について説明

議長

質問・意見ないので次に。

事務局

山梨県の教員として必要な素養について説明

委員

経験によって必要な素養というのは深みが出てくるということで、この経験、違いはあ  
ると思いますが、元々どういう素養が必要かということはステージで変わるものではな

と思いますし、教員は一社会人でもあるので、特に分けるのではなくて、今度の改定版のような形でいいのではないかなというふうに感じました。

一つ、言葉の持つイメージの問題なのですが、新しく入った「情熱を持って・・・」という所がちょっと引っ掛かって、教員としてただ責任感を持っているだけじゃなくて、自分からどんどんやっていこうという、そういう気持ちが必要だという意味で書いてあると思うのですが、「情熱」という言葉の持つイメージががむしゃらにがんばるみたいな感じが受け取れて、教員は自分は一生懸命熱意を持ってやっているのに、なぜ子供に伝わらないのみたいな思いを持ってしまふかもしれないけど、そのがむしゃらな面と、一方ではちょっと引いて、どういう目的のためにどうするのかという客観的な気持ちも持たなければいけないので、「情熱を持って・・・」という所にちょっと言葉が引っ掛かったのですが、そんなに強く思うわけではないのですが。むしろ魅力的とか、そういうふうな言葉のほうがいいかなというふうに感じました。全体的にはこれでいいのではないかと感じます。

**議長**

今の委員の指摘は、左側に目指す教員像の2つ目の丸で、教育に対する情熱と使命感がある教員という、この情熱があるのですが、こちらは情熱を残したままで右側の表現をとというイメージでいいのでしょうか。

**委員**

議論が進んでいる中でこういう形になっているので、これでまとまるのだったら特に無理に変えてとか思いませんが、そんな印象を持ちました。

**議長**

この情熱はどのようなイメージの情熱で、委員がおっしゃられたようにがむしゃら感をというところをイメージされているのか、どのような情熱をイメージされているのか。説明頂けることがあればお願いします。

**事務局**

こちらの国の指針の改正案の素養の所で、教育的愛情が今回提示されている中で、教育的愛情を表すのに情熱という言葉を加え、目指す教員像の「情熱と使命感がある教員」と関連付けました。

**委員**

目指す教員像というのと、それから山梨県の教員としての必要な素養という、この2つが並ぶようになって、目指す教員像が書かれているということは分かりやすく良いのですが、一方で現行の育成指標のときには、どのステージで、採用時にはこういうもの、全ステージではこういうものというのが示されていたので、ぱっと見わかりやすかったのですが、ここが山梨県の教員としての必要な素養というのは全素養においてこれが目指されているという所が若干見づらくなってしまったのかなというのと。目指す教員像は、そうすると採用時にこういった人が求められていますよというのが募集要項でのメ

ッセージかなというふうに思うのですが、その後目指す教員像というのは引き続き目指されていくものなのかどうかというところが見えると分かりやすいというのがまず1点です。

それからもう一つは、目指す教員像が5項目、そして山梨県の教員としての必要な素養も5項目あって、先ほどのご説明ですと目指す教員像の3番目の、児童生徒や保護者に信頼される教員というのは、高い倫理観を持ち、勤務の内外において法令及び服務規律を遵守することができるという、必要な素養のところ対応しますというご説明があったのですが、これはそういうふうに横で対応させて見るべきものなのですかという質問と。そうだとすると、児童生徒や保護者に信頼される教員というのは、必ずしも右側の必要な素養と対応するかどうかという議論がまた出てきそうな気もしております。

**事務局**

対応していると言うよりも、関連性がある部分で並べています。隣で見えていくと対応しているように見えますが、一対一で対応させて表記している訳ではありません。

**議長**

直接一対一で対応しているわけではないというふうに見ればいいという形でしょうか。

**委員**

そのほうが納得いたします。

**議長**

あとステージごと、この上に書いてあるのは採用時から第3ステージまで、山梨の教員には共通的に持って見るという見方でいいのですかというご発言もただ今ありましたが、その点についてはいかがですか。

**事務局**

教員として全ステージにわたって必要な素養という形で提示しております。

**議長**

全ステージ共通にこういった資質が求められるんだということなんでしょうかね。

**委員**

それを踏まえてもう一つだけよろしいですか。そうすると、この目指す教員像というのは、いつまでと言うと変なんですけど、いつこれが実現することをイメージされているのでしょうか。

**事務局**

イメージで言いますと、こういう教員像をずっと追い求めていく、目指していくという考え方のイメージです。

**委員**

この言葉のとおり完成形で、目指す、最初からこうではない。しかしこういうものを全て整うと言うか、こういう素養を持った教師を目指すということであれば、今のご説明はわかります。この枠の横枠が目指す教員像があって、その右はずっと一つずつと繋がって

いるじゃないですか、第3ステージに。先ほど委員さんの話の中にもありましたけども、これはずっと、根底というか、このことを素養として持つ、持ってほしいし、持ってほしいし、なかったら持ってほしいしということがずっと続くということですよね。

**事務局**

はい、そういうふうに考えています。持ち続けたり、あるいはこのことを目指し続けていく、ということになります。

**議長**

そういう意味では、この目指す教員像というのが一番上の左側の所に置かれてはいるのですが、ここの中身も元々はピンクの上の所で、横で3ステージずっと並ぶような所で示されるのが、理想的に言えば望ましいというふうに考えればいいですか。スペースの問題があるので、そのように表記してほしいということを言いたいのではなくて、ここに書いてある意味合いとしてはそういう意味をお伺いしたいのですが。

**事務局**

目指していく教員像ですので、第1ステージから第3ステージまで目指し続けるという教員の姿という考え方、全部通してという考え方になります。第1ステージから第3ステージまで目指す教員像は全部当てはまるというふうに考えております。

**議長**

ここは理想的には共通指標でどこかのステージに特定したものではない、という考えを確認させていただきました。

**委員**

細かな話ですが、今回「勤務の内外において法令・・・」ということで、「勤務の内外」という言葉が入りまして、ただ前は社会人のところにあったのが、教員と合体したので勤務の内外と入れられたのかとも思ったのですが。「勤務の内外・・・」というと、何か在職中の職務中と私生活というイメージがやっぱり付くのですが、教員の場合離職後も守秘義務ですとか、または一般の人に比べてやはり何かしら犯罪行為をすれば社会的制裁が大きいわけですので、こう書くと在職中という意味合いがすごく感じられるので、あえて書かなくても普通に「法令及び服務規律」でいいのではないかなとも思ったのですが、そこはいかがでしょうか。

**議長**

今のご指摘については、また引き続き検討をしていただきたいと思います。私からこの項目について1点だけ発言させていただこうと思いますが。現行の育成指標の項目の中に「協働的に物事を進める」という言葉が、最後の所だけ入っているんですね。今回の見直し案のところにつきましては、協働的というのは学校運営の所において協働的という所が出てくるというふうに先ほどの方針では書いてあるのですが、必要な素養の中に協働的に取り組むという要素は入れておかななくていいのかという点について、事務局の中で考えていただきたいと思います。新しい学習指導要領の中でも、主体的・対話的で深い学

びにおいて、協働的な学びを求めるということが指導要領の中で書かれているわけですが、教師の研修の今後のあり方についても子供と同じように、主体的、対話的で深く、それで協働的に取り組んでいく学校経営ということが示されているわけですし、そうなる、これはその教員としての必要な素養として「協働的な」という観点を入れたほうがいいかどうかは一つの論点かと思えます。必要な素養として「協働」という言葉というのを入れておくことについて検討をお願いしたいと思えます。

#### 事務局

ステージ、学習指導について説明

#### 委員

この学習指導が前のものより丁寧に書かれているのですけども。実は山梨、私は昭和の時代のその現場にいたのですけども、山梨の特徴としてまさに授業計画、授業実践、授業評価・改善、これは校内に研究会としてあるじゃないですか、自発的なものです。その自発的な研究会がそこに存在すると。これは要素としては、このステージ1、ステージ2、ステージ3が全部入っているわけです。そうすると、新しい教員、迎えられた人がどのステージにいるかはこっちに置いておきまして、一つの受け皿、あるいはそこで含まれる環境として、校内の中に校長先生、教頭先生、全て含まれた教職員のそういう研究会、校内研究会が現存している。今もあるでしょう。そういうところを活用すると、この赤で書かれた新しくPDCA3段階、3枠になっていますけども、そういうことも含めて中で切磋琢磨するような協働という言葉もあってもふさわしいかもしれませんが、その中で1年間できるじゃないですか。そういうふうなことの校内研究なんかの場合も、この目標がうまく使えるんじゃないかと、付带的に。自らが、あるいは学校としての評価が、そこでもうちよつとだな、いや、ここまで来たね、という評価ができるのではないかというふうに私は思いましたので、ここの3つ、計画、実践、評価・改善、これに分けて、しかも3ステージをここに設けているけども、私は現場のそういう組織を有効に使えるなどと思っています。

#### 委員

授業評価という所をどういうふうに見ればいいのかというふうに思っていたんですが、先ほどの説明でPDCAサイクルであるというふうに伺いましたので、よくわかりました。一方で、そうだとすると学習評価とはまたちょっと違うレベルのことを目指されていて、すごく深いレベルのことを目指されているというふうに感じっていますが、それを研修で本当にやり、それをどういうふうの評価して、そのこと自体をどう評価していくのかなという難しさがあるとは思っています。また、各ステージで書かれていることを読むと、学習評価に特化した書きぶりになっているようにも見えますので、どっちで読んでいけばいいのかというところを詰めたほうがいいのかなと思います。学習評価だとすると、学習評価・改善をつなげしまうと、そこだけが改善されているようにも読めてしまいますので、書きぶりが難しいですね。

議長

意識しておられるのが学習評価視点なのか、授業評価視点なのか、どちらなのというご指摘かと思いますが、さらに見直しを掛けるときの視点としていただきたいと思います。

事務局

ここは検討の段階でもなかなか難しい所です。指導と評価の一体化ということが今、求められていますので、授業評価も学習評価を通しての授業評価という考え方でありませう。ご指摘があったように学習評価に傾いた形での表現になっているのはこのような考え方からです。

議長

この育成指標でマトリクスみたいな形で作ったあとに、育成指標の解説書のような、考え方を説明する別の資料みたいなものを作るご予定はありますか。

事務局

活用ガイドという形でセンターの研修と関連付けた説明資料を考えています。また、教員の免許更新制の発展的解消に伴って研修の履歴、県教委がやる研修だけでなく、多様な研修の内容も入れていくようになってきています。はっきりどういう方向でというところまで国のからも示されてはいない部分もあるのですが、先ほど永田委員からも話がありました。学校の中での研修ということも入ってきます。これらを説明する活用ガイドというものを作っていくことが必要であると考えています。

議長

今ここで見ていただいている資料では、どうしても文字の制限がありますから、そこを活用ガイドという中で、考え方というものをまた示されるようにすることで活用にも繋がっていくのかなと思いましたが、この資料と活用ガイドの両方から、より理解が深まって、活用がしやすくなるものを目指していけばいいのではないかなというふうに思いました。

委員

学習指導の授業実践についてですが、主対深の学びですとか、個別最適な学び、協働的な学びは、やはりステージで区切るのはかなり無理があり難しいとも思います。全ステージを通して全教員がやはり狙うべき項目であり、また授業改善の視点であると思います。第1ステージで主対深、第2ステージで個別最適。国がせざるを得ない、先ほどの説明もあったのですけれども、であるのであれば先ほどのガイドブック等でちょっと丁寧な説明も必要かなと感じました。

委員

学習指導の採用時の所に、「学習指導要領の趣旨を踏まえ、各教科等の目標や指導内容について理解している」とあるのだけれど、この中に評価とかということあげなくていいのですかねと感じたことが一つ。「主体的・対話的学びの実現に向け・・・」みたいなのがファーストステージに入っているというのは、これ区切ってあるわけですけど、やっ

ぱり注を付けてほしいということです。そして3つ目は、これ全体を見て短期とか長期の目標というか、教科課程の目標みたいなものをどういうふうに踏まえて授業を改善したり、評価したりとかというところがちょっと足りないと思うので、ここの授業評価・改善に入るのか、あるいは学校運営の教育課程に入るのか。授業を今、要するに短期的、長期的な目標にしているし、今生徒がどんな状況なのかみたいなことを評価するというのは重要なので、そういう要素をどこかこの授業評価の改善に入れるのか、あるいは学校運営の教育課程に入れるのかはわからないのですが、どこのステージに入れるかわからないのですが、そういう視点というのはちょっと必要じゃないかなというようなことを感じました。

#### 委員

学習指導につきましては、これまでよりこのような形で分けて非常にわかりやすくなったと思います。採用時の所の「趣旨を踏まえ・・・」で、「・・・理解している」というのがちょっと理解できなくて、例えば踏まえた目標を理解しているのであれば通じるのですが、その辺をもしご説明いただければと思います。そしてその右上に書かれています第1ステージの授業計画の所は、「趣旨を踏まえ、・・・計画を立てている」。これは読めるのですが、ちょっと左の「踏まえ・・・、理解している」というのはちょっとわかりづらいというふうに感じました。それから授業計画の第2ステージにありますけれども、「専門性を生かした指導計画」というのはどういうことなのか、ちょっとわかりにくいと感じました。あとは授業実践につきましては、なかなかこういった色々な言葉がありますので、こうやって書くというのは難しいと思いますけれども、最終的に何を落としどころにするのかというところが私は大事かなと思っています。それで第1ステージ、第2ステージ、第3ステージで、どのような段階を踏んでいくのかと。その中で必要であればこういう言葉を使えばいいし、場合によっては使わずに何か別の表現もあるのではないかなということをうかがっていて感じました。それから、授業評価・改善について、先ほどの説明で、PDCAということだったなということまで理解をしたのですが、ただやはり内容的なところを見ますと、どちらかというとならば学習評価に関するところがちょっと多いように感じましたので、その辺の内容についてはまた検討が必要かなと思いました。

#### 議長

今のご質問の中のここの「踏まえ」の所の考え方はどのような感じだったか、そこだけ補足の説明をいただけますか。

#### 事務局

この言葉の所をもっと注視して「踏まえ」がいいのか、「踏まえた」のほうがいいのか、あるいは違う言葉がいいのかというのを、さらに検討したいと思います。

#### 委員

先ほど学習者中心の授業ということが今求められているということで、その言葉を第2ステージに使いましたという説明があったんですが、特に全体的にこの学習者中心ということは求められていると思うのですが、わざわざこの第2ステージに実践と評価で入れているのは、何か意図があるのかということと。学習者中心の授業にということをはかすと、ちょっと第2ステージの評価・改善のほうが主体性とか、何かそういう所も薄くて、あまりよくわからないのかなと思ったのですが、先ほどのように何か改めて説明を付け加えてくれるような資料が出るのであれば、そこで改めて少し具体的に becoming くるといいなというふうに感じました。

**議長**

今、指摘くださった学習者中心の授業の実践というのが、第2ステージになって出てくるというところは、私も拝見して少し気になったところでした、恐らくこれは第1ステージまたは採用時の所から意識をしていただく中身のように、これからの授業のスタイルという意味では、なかなか実状もあるので第2ステージに置くというのももちろん理由がある部分はあると思うのですが、ここの学習者中心の授業の実践ということについて、置き方を少し考えていただく余地があるのかなと感じました。

**事務局**

生徒指導について説明。

**委員**

2点いいですか。やはり生徒指導と特別支援教育の関係ですけども、大きな立て付けについては全然異論はないのですが、生徒指導の中に特別支援教育を関係があるということを入れたということですが、ちょっと自分は違和感がありまして、前々回の素案のほうを見させていただきますと、特別な配慮を必要とする幼児生徒児童への支援に関する事項の中に、その中に障害のある幼児児童生徒への指導を含むと括弧書きに書かれておりましたので、どちらかと言うと、この大きなカテゴリーの「特別な配慮や支援を必要とする子供への対応」のほうに近いのかなんていうようなところで、もう一度この辺の見解を教えていただければと思います。

2点目は、「いじめ等」なんですけど、いじめ等の「等」には恐らく本県の課題である不登校への対応も入るかと思いますが、指導重点等の中でも本県では、いじめ、不登校というふうに言われているので、その辺を入れたらどうでしょうかという意見になりますけども、見解がありましたら教えてください。

**議長**

まず特別支援教育の置いた場所ですね。そこのところと2点お尋ねでございましたが、いかがでしょうか。

**事務局**

最初の素案から今回の改定案に至るまで、どのような考え方で検討してきたか見解をどういうふうに話が、というふうに教えてほしいとご指摘を受けましたが、「特別な配慮

や支援を必要とする子供への対応」に該当するものは環境により生じる困り事をもつ児童生徒を支援をしなければならないという要素です。それに対していわゆる障害等を元々持っている児童生徒への対応は、特別支援教育が該当すると整理しました。検討の中でこういう考え方で整理するのがいいのではないかと、特別支援教育担当から提案があり、このような立て付けになっております。

それともう一つ、いじめ等への対応という所で、確かに県学校教育指導重点では「いじめ・不登校への対応」となっているのですが、いじめを含めた問題行動という形での書きぶりがよいのではないかとになりました。不登校も含む形でのいじめ等問題行動という形での書きぶりにしました。この部分は指導重点での「いじめ・不登校への対応」というのと書きぶりが違ってきます。

**議長**

今の特別支援教育を生徒指導の中に入れることについても、先生のほうからご意見いただければと思うのですが。

**委員**

「特別な配慮を必要とする・・・」という文言が出てきたときに、特別支援教育がそこに埋もれてしまうことをすごく心配しました。特別支援教育の対象となっているお子さんたちは、そもそも先ほど説明にあったように障害をもう持っているわけです。持っているがゆえに、変な言い方だけど障害だからしょうがないよねというふうに、求める教育から排除されてきたようなこともあるので、そうではなくて障害を持っているお子さんたちに対してどういうふうに構築していくかということがとても大事だと思っていて、特別支援学校は地域の教育相談にも行くのですが、特別支援教育を必要とするお子さんたちに対して、学校の中で何とかしようという向き合う支援体制が作られているかどうかによって、本当にそのお子さんの学校生活が変わってきてしまう、大きな影響を表すということを考えると、この中身として、その生徒指導としてこの子たちをどういうふうに守っていくのかという学校体制を作っていくために、それぞれの人たちが資質を高め、学校の中でも組織的に作っていくのだというふうな流れになっているので、私としては別立てでこういうふうな流れであってほしいなというふうには思っています。

**議長**

それは生徒指導の中に特別支援教育というふうに位置付けられてもいいだろうということですか。

**委員**

出すということですか。特別支援教育を全然別の中に出すということですか。

**議長**

この特別な配慮や支援を必要とする子供への対応というところと、この特別支援教育というのをうまく併記するのか、どうなのか。この生徒指導という中で特別支援教育というのを位置付けることの意味付けですね。わかりやすく言うと、それぞれの指導要領では

特別支援などについて交流及び共同学習をすることが今回の指導要領から入っているのですが、特別支援を理解するために生徒指導の場で特別支援教育を強化しましょうというような、色合いが濃くなる印象が私は見たときに思ったのです。ここで求めているのがそのような意味合いであるのならよろしいかと思います。ただ、そのような意味で矮小化するのではなくて、教員としてこの特別支援教育に対する理解と専門性という形で位置付けるならば、その辺りの位置付けがここで適切なのかどうかというのは、特別支援教育全体の観点から少し検討いただいたほうがよろしいかというのが私の感想です。実務に近い学校現場の先生方から受ける印象などから、この辺りの位置付けについては、また少し検討や確認いただければなと思う次第です。

#### 委員

「同僚と協働し」というのが第2ステージに何度か出てきますよね。それは多分協働力養成期というふうに第2ステージが位置付けられているから、そのように書かれているのだろうと推測いたします。そうだと思う一方で、第1ステージでもやはり違うレベルでの「同僚と協働し」というのは求められてくるであろうというふうに思いますので、ミドルリーダーとして求められる同僚との協働性ということだろうと思います。そこの所がわかるように書いていただけるといいのかなと。あとで出てくる学校運営の中の連携・協働という枠組みとの整合性も含めて、少しご検討いただけるといいのかなと思いました。

#### 委員

児童生徒理解の第2ステージで、特にここで「自己肯定感、自己有用感の向上」という言葉が出て来ているのが、ちょっとここだけ出てくるというのが少し違和感と言いますか、ほかにももちろん必要なことだと思いましたのでそれを感じました。あとは生徒理解全体に関わることですけれども、例えば情報収集とか、観察力とか、共感的理解とか、そういったようなことも必要だと思いますので、その辺はまた全体を見ながら必要に応じてそういう言葉も入れることをご検討いただければなと思いました。

それからあとキャリアですけれども、第2ステージにあります実現する力の育成というもの、これもやはり全体に関わることなので、この第2ステージだけに限った話ではないので、これもやはり全体を見ながら段階的な記述にさせていただけるといいかなと思いました。

#### 事務局

学校運営について説明

#### 議長

学校運営のところについて、ご意見をいただきたいと思います。まず私からよろしいですか。働き方改革、業務改善のところについてありがとうございます。難しい指標をこうやって入れていただいて、検討いただいたこと感謝をする次第ですが、「校務に積極的に参加し」というところが第2ステージで出てくるのですが、ここも第1ステージで校務に積極的に参加しないということの意味するわけではなくて、ミドルリーダーとして

の校務の参画とか、ミドルリーダーとしてのマネージメントをしながらの働き方改革という意味合いでここを表現しているという趣旨だと思うので、そういう目で見たときの第1ステージの関わり方というところは少し検討してもらいたいと思います。このステージでいうところの限定をかければいいのかもかもしれませんが、端から見ると少し気になるかなと思った次第です。

#### 委員

教育課程の「社会に開かれた教育課程」とか、あるいはカリマネとか、あるいは連携・協働のチームとしての学校。これもやはり全体に関わることなのかなという気がしています。それから細かい所ですけども、連携・協働の第1ステージの「責任を果たしている」というのが、ここも具体的な何か記述があったほうがいいのではないかと感じました。

#### 議長

教育課程は割と区分けをして書いていただいたというお考えでしょうか。私も同感なのですが、この教育課程の指標を見ると、第3ステージの所は「社会に開かれた教育課程の編成・実施において指導的役割を果たしている」という言葉や、カリマネのところも教育課程の編成・実施、恐らくカリマネの編成をするときに関わられるというのは、学校現場ではミドルリーダー的な形、また、管理職ですとか、第3ステージの先生方が中心になると思うんですが、私はそのカリマネの実施と編成時における関わりがどのぐらいの先生方で構成されているのかというところが見えていないので、正しい発言ができていないかもしれません。それぞれのステージごとで見たというふうに見ると、確かに合っている。しかし端から見ると、カリマネは当然第1ステージの教員にも関わる話だからというところもありますし、しかしその言い方について、ここの教育課程のところでは割と区別がされやすくなっている感じもしたので、いずれにしても改善できないかという視点で見ていただきたいと思います。

#### 事務局

教育課程の編成・実施では、各学校の主任とかミドルリーダー以上の教員に関わることが、学校では多いので、その書きぶりを踏襲しています。各教員が授業を実践するときカリマネの視点を取り入れていくというのは、第1ステージから必要であるということは、活用ガイドで表現していきたいと考えています。

#### 議長

この学校運営のところは、まさに学校の先生方が肝の部分の指標かと思うのですが、先生方からご覧になって、この教育課程とか連携・協働とか、この働き方のところの整理の仕方ですね。先生方いかがでしょうか。方向性としてはこんな感じということではあるのですが、よりブラッシュアップしていく方向で引き続き検討していくということで進めさせていただくということで、今日の会議ではよろしいでしょうか。

#### 事務局

残りの教職としての専門性について説明

**委員**

特別な配慮の所なんですけど、私もこの表をぱっと見たときに不登校という言葉がないなどは思っていたんですけど、私自身、不登校はここに入るのかなとは最初思っていて、つまり子供の貧困、不登校児やヤングケアラーと入れたほうがいいのではないかと感じたところがあります。いじめ等への対応の所に入るという話でしたが、不登校がここに入ると問題行動とか未然防止とか、不登校の解決とか、文脈的にここにはやっぱり繋がらないかなと思ったものですから、不登校はここに入るということで不登校児やヤングケアラーと、こうしたほうが、このあとの対応の文脈を見るとここは違和感ないなと思いましたので、そのほうがいいのではないかと考えたんですが、いかがでしょうか。

**議長**

不登校のところの取り扱いについて、いじめ等の問題行動調査のそこには、暴力などについてもここに入ってくることになるわけですが、この上のいじめ等の対応のほうで整理をされたほうがよろしいか、それとも下のところの特別な配慮、支援を必要とする子供の対応の中で不登校というのを入れたほうがよろしいか、この辺りはどうでしょうか。

**事務局**

不登校はどちらに入れた方がよいか担当課に相談しながら、どちらに入れるのがいかということを探りたいと思います。

**議長**

学校の先生方からすると、どちらのほうが自然か、またご意見をいただきたいところではあるのですけれども。

**事務局**

県教育指導重点でも、「いじめ・不登校の対応」という表記になっているので、このように表記するのが学校現場にも伝わりやすい。今まで県教委ではこのような表記で資料を作り説明してきた。

**議長**

そうすると、「いじめ・不登校等への対応」ということで、不登校を外出しにして、不登校がいじめのところに入ってくるのがより見える形にして整理するというのが、一つの案として考えられるということでしょうか。最近の教育行政の傾向と言いましょか、動向といたしまして、これまではなかなか表に出てこなかったような困りごとがある子どもが増えてきている。それは子どもの貧困であったり、ヤングケアラーであったり、外国籍の子どもへの対応など、割と新しいところですが、それを特別な配慮というところで整理するよりも、支援を必要とするというところで読んでいるのかと思いますが、ここに不登校が入ってくるのか、これまで長くの間対応してきたいじめと不登校は別枠で整理したほうが整理しやすいのか。この辺りは現場の先生方の感覚と、サポートし続けてき

た行政側の考えも合わせて検討させていただきたいと思います。表現の仕方も含めて事務方で検討させていただきたいと思います。

#### 委員

特別な配慮の所で、これを見るとスクールカウンセラーという文言がすごく目立つのですが、特別な配慮をしている子たちはスクールカウンセラーさんに心に寄り添ってもらうことも大事だけど、実際的には行政とか医療とか、福祉機関とか、そういう所に働き掛けて解決していかないとどうにもならないことなんだけど。よく知らないスクールカウンセラーが学校にいて身近な人なので、それに相談すれば何とかかなと思うイメージもあると思うので、ちょっと文言を、スクールカウンセラー・医療とか、福祉機関とか何かあと1個入れて高度専門家というふうにしてもらって、少しスクールカウンセラー以外にも相談する機関はあるということが意識付けできるといいかなというふうに思いました。

#### 委員

ICTの第2ステージですが、「ICTを効果的に活用するとともに」という最初の文言は、何を活用するかがわかりづらいので削除してしまって、その後半部分にもう効果的な活用というのが現れているように思いますので削除できるのかなというふうに思います。それでさらに児童生徒の学習等の改善というところが何の学習の改善かが見えるようにすれば、いいのかなと思いました。

#### 委員

ここにICTの文言、しかも第2ステージにきちっと書いてあるということで、不明瞭な所はもうちょっと正確にわかるようにしてほしいということはあるのですが、ここに「児童生徒の学習等の改善を図る」と。この改善というのは何なのかというのはすごく大事で、どのステージ、子供にとって何学年になるのかわからないけれども、やっぱり学習もICTを使いこなせるまでいかにいかに活用すると今まで触れたことのないような新しい発見みたいなものがあると思うのですよ。そうすると自ずと学習が非常に個性化していくというような可能性があるんで、ここの文言をすごく載せてもらったことありがたいし、その内容をちょっとわくわくするような感じになるといいなと思いました。とてもいい感じです。

#### 議長

今のご指摘を基に検討していただければと思いますが、ここでのほかの指摘等も同じですが、それぞれのステージの中で求められ、期待される関わり方というところかと思うので、第1ステージがやや教育データの活用の辺りが少し遠い感じになっているように見えるのは気にならないか。そういったデータ活用などもそうですが、教員としての基礎的な活用のところを身に着けていくというニュアンス入るといいのかなと思いました。情報・教育データという言葉で整理をしていただいたのでしょうか。このICTや情報・

教育データの利活用というところの、この「情報」というのはどういうふうに読むのでしょうか。

**事務局**

中ボツの表記のほうは、国の指針改正案の資料に書いてある表記です。

**議長**

情報・教育データという書き方をされているのですね。

**事務局**

はい。それを踏襲しました。

**議長**

確かにICTや情報・教育データの利活用と書いていますね。読んでみるとよくわからないので、分かりやすく変えたほうがいいかと思ったのですが。そのコメントだけ記録に残していただくとして、また私も考えさせていただこうと思います。

**委員**

もう一つ、その情報を今の社会の中でどう読み解いていくかということも今回の「学習指導の主体的・対話的で深い学び」、しかも「教育課程は社会に開かれている」と書かれているので、情報を読み解く力、メディアリテラシーという言葉はどこかにちょっと入れていただくと、より深みが出るかなというふうに思っております。どうしてもついつい守りになってしまうと、こういうことはやっちゃいけないよ、ああいうことはやっちゃいけないよとなりますけれども、たくさん溢れている情報の中から必要な部分を見出して、そして何か作り出していくということになると、読み解く力もメディアリテラシーという言葉はどこかに入れていただけるとありがたいなと思います。

**議長**

今の御指摘について、教員自身のメディアリテラシーを向上させるべきという意味合いなのか、それとも子供のメディアリテラシーを育むべきという、意味での趣旨に近いのか、どちらの趣旨に近いのですか。

**委員**

両方なんでしょうけれども、最終的には子供たちがそれを持たなければいけないし、その前提には教師は当然持たなければいけないのですけれども、そういう意味では目標ということでは子供たちが読み解くことができるというふうにしたほうがいいかなと思います。

**議長**

子どもができるようにするための指導力、という感じでしょうか。考えさせていただこうと思います。

**委員**

ICTの所で一つだけすみません。2つの観点があると思うのですよね。校務の部分と、あとは学習指導。私、ぱっと見て第1ステージが最初、「授業や校務等に」と書いてある

のだけれども、どちらかと言うと子供たちの指導に偏っているかなと、ちょっと読んでいて気がしますね。だから全体として授業と校務、全体に関わるどうも記述になっているような感じがしますので、少し第1ステージもその辺のバランスを考えてもよいのかなということを感じました。それから研修の所が、少し第2ステージが弱いかなという感じで、やはりミドルリーダーとしての役割にも何か触れるといいのではないかなと思いました。

#### 議長

ICTのところについては、どこに意識を置くのかを意識しておかないと、どんどん広がって拡散していくのでその辺りも意識しながら再度整理を試みていただこうと思います。

それから、研修のところについてご意見ありがとうございます。ミドルリーダーのところ少し薄いのではないかというご指摘であります。育成指標やこのあとの研修のところにも繋がる部分でありますので、この部分の表現についても一度再考をしていただきたいと思います。

#### 委員

色々とお話を聞いてみると、この項目が例えば学習指導に入るのか、あるいは生徒指導に入るのかと、結構難しいところがあると思います。多分どこに位置しても最終的には問題になってしまうので、それぞれの項目とそれぞれのステージというのはチェックリストのようにばらばらになるのではなくて、全体として膨らんでいくのだということ、これどこに書くかという難しいので、多分ガイドブックを作られるということなので、そここのところで若干強調されたほうがいいのではないかと。例えば授業計画の中でも、子供たちがどういうふうな思いを持っているかという児童理解、生徒理解がなければ当然できませんし、そういう関わりを重視しているということを書いていただくのととてもいいかなと思いました。

それからもう一つ。そうやって読み替えてみると、人権だとか一人一人の個性や尊重というのがすごく出ていますが、同時に実はこうした不透明な社会の中で、山梨や日本の社会を担っていくということを考えると、どこに入れていいかちょっとわからないのですけれども、子供自身が主体的に社会とか学習に参加していく力量、これをみんなで育てようという言葉が入っているのいいかなと思ったりしますので、どこに書いていいのかな、ちょっとなかなか難しいのですけれども、そういう趣旨のことが入るような形で実務をやっていらっしゃる方に中心になりながら入れてもらったほうがいいかなと思いました。結構生徒の主体的、自主的な授業だとか社会参画が今後重要になってくるかなと思いました。

それからもう一つ、上の中を読んでいて、これでもいいのですけれども、もう一つやっぱり集団としての、教師集団としての力量というのをちょっと重くしたほうがいいのかと思うので、これもどこに入れるかと言われるとちょっとなかなか私には難しいですが、同僚性と言いましょかね、お互いを助け合う形の同僚性という言葉はどこかに入れて、お互

いがお互いのことを補い合いながら、忙しいところを助け合って作っていくという言葉、どこに入れるんでしょうね、学校運営になるのかな。その中にキーワードとして入れていくことが結構重要なと。皆さんのお話を聞いて思いました。

**議長**

子ども自体が主体的に学んでいくところというのは、育成すべき子どもの、目指す子どもの育成像と関わってくる話なのかなということで、今回の教員育成指標の見直しからすると少し広くし過ぎている感じも感じました。ちょっと御指摘のように置けるかどうか、少し考えさせていただこうと思います。

それから同僚性のところは、お話を伺っていて「協働して・・・」というところに近いのかなという感じがしたのですが、協働のところは上のところにも置いてもらうようなことを少し考えていただくということですので、もしもよろしければ、そこに今先生が言っていたいただいた教師集団として協働していくという感じの、ニュアンスが入れられればなと思いますが、そんな方向でよろしいでしょうか。

**事務局**

一つ説明の所で落としてしまった所がありまして、現行版のところを見ていただきますと、新たな教育課題という所に現行版は「グローバル化への対応」というのがありまして、ここはグローバル化への対応なんですけど、中身を見てみると第1ステージから第3ステージまで貫いた形で、どちらかと言うとグローバルという視点での書きぶりになっています。実は今回、この部分はほかの項目が入ってきた関係で、この部分は案としては割愛した形にしています。この内容は「山梨県の教員としての必要な素養」で、「児童生徒一人一人に愛情を持って、未来の山梨を担う人材を育成している」という所に代わるような形で、項目立てはしておりません。今、廣田先生のお話を聞く中で、この内容の部分に該当するような視点なのかなと思いました。そして、説明し忘れていたということを出して追加で説明をさせていただきました。

**議長**

グローバルのところは他にも議論がありそうな気がしますね。すみません、今日は時間がかかってしまったので、この案で追認するという意味ではなく、この点についてはまた改めてご意見を賜りたいと思います。申し訳ありません。

**事務局**

やまなし教育みらいフォーラムについて説明

**委員**

なるべく参加を多くするために学生だとか周りに広げようと思っていて、日程をちょっと検討しています。

**委員**

ZOOMで行うとなると、グループ討議分けはグループごとにブレイクアウトルームを作っていくというやり方になりますか。

**事務局**

はい、そうです。

**委員**

わかりました。私も参加させていただきます。

**議長**

25分、先生からお話をいただくということですが、この25分のグループ討議について、25分は短すぎませんか。25分のグループ討議って意外にあっという間です。まず、うまくブレイクアウトルームに入れない人が出てきて、この対応で5分程度かかります。そして参加者の一人が多く発言してしまうと、それでまた時間が過ぎてしまい、あっという間に25分が過ぎて終わって消化不良の印象が残る、というパターンが多いので、実施時間が2時から4時半になっているのですが、グループ討議のところについての時間の設定はもう少し長くしていただくことはできないでしょうか。

**事務局**

検討させていただきます。

**委員**

昨年何かずいぶん長くグループ討議を余裕をもって組まれたらしいのですが、なかなか初対面の人たちなのでちょっと一方的な、討議まで至らないところもあったので、もうちょっと話したいなぐらいのところまでこれぐらいの数字になったようですけども、また検討されるんじゃないかなと思います。その経緯を知っていたのでお話をさせていただきました。

**議長**

1回のみで開催でなく、単発的に第2弾、第3弾と実施いただけのでしたら、今回は25分程度のグループ討議で良いかと思いますが、もやもやしたまま、「言う時間がなかった。」「発言ができなかった。」という感じになるのは極力避けたいですね。この催しはウケがいいことはこれまでからもわかっているので、同年度内に小さな規模で良いので第2弾や第3弾もやっていただきたいといつも申し上げているのですが、時間が長いという意見も去年あったのでしょうか。

**委員**

全体を見ると、もうこれで十分かな、2時から4時半ZOOMという。もしこれが対面であればもっと長い時間でも時間を経つのを忘れてなんていうこともあるとは思いますが、ZOOMとしてはこれぐらいかなと思います。

**議長**

私個人的には、第1部に参加する方と第2部に参加する人は、全然違っていいと思います。第1部と第2部で本当に情報が欲しい学生さんは参加されると思うのですが、時間の都合上で第1部だけ参加される方、また第2部からそこだけ参加される方など、様々な参加のパターンがあっという間と思うので、全部参加してもらおうとすると、2時間半はとて

も長く感じると思うのですが、パーツパーツごとに参加いただくというような発想の方が、今どきの学生さんなどには参加しやすいのではないかと思います。

**委員**

毎年発展していくという意味で、今年これやってもらって、そしてまた改善していくと。とりあえず今年はこれでという形で、色々ご意見をいただいて、またいろんな形を模索するというのも良いかと思しますので。

**議長**

議長のようなまとめをしていただき、恐れ入ります。ありがとうございます。

## 5 連絡

**事務局**

次第に掲載されている内容に基づいて報告・連絡。

## 6 閉会